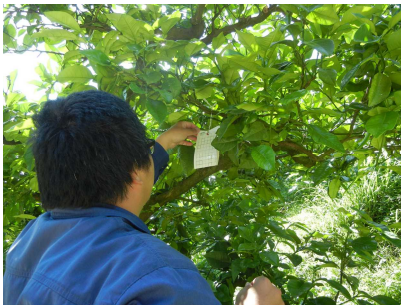


普及活動情勢報告（平成30年6月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

「アカマルカイガラムシ」の発生予察始めました！

～発生予察用粘着板で防除適期を把握～



発生予察用粘着板を
設置中のJA職員

土佐市は「土佐文旦」の県下一の産地ですが、近年、静岡県や愛媛県で問題になっている「アカマルカイガラムシ」が県内でも増加してきており、防除時期の特定が難しい難防除害虫として知られています。

JAとさし常緑果樹部会では、発生予察用粘着板を用いて、「アカマルカイガラムシ」の防除適期を判断しています。

農業改良普及課では、JAと連携し、6月1日より管内8ヶ所に発生予察用粘着板を設置し、調査を開始しました。今後、約1週間ごとに雄成虫の発生状況を確認し、ピークが確認できた時点で、地域内放送で生産者に薬剤防除を呼びかけていく予定です。

多様なショウガ青枯病防除対策の探索

～やってみなくちゃわからない！簡易な局所熱水土壤消毒法を試行～



熱水注入中の地温推移を見
守る園主、関係機関職員ら

5月25日に土佐市管内の露地ショウガ収穫後ほ場で、園主、JAら関係機関計6人が立ち会い、青枯病発生株周辺の局所土壤消毒を目的に園主が発案・施工した家庭用湯沸かし器による局所熱水土壤消毒にチャレンジしました。

当日は炎天下の中、波板で仕切られた1m²区画内に約2時間に渡り70℃の温湯約400Lを土壤灌注しました。

農業技術センターは処理前後の土壌中青枯病菌密度調査を行い、農業改良普及課は処理時の地温測定を行いました。今回は土壌深部での青枯菌死滅温度は確保できませんでしたが、引き続き生産者、関係機関と連携して簡易・安価・有効な防除法を探索していきます。(274字)

平成30年度中央西農業改良普及推進会議の開催

～平成30年度普及計画、目標目指して推進します！！～



チーム長が計画説明

5月30日、普及推進会議を構成員16名（農家9名、関係機関6名）の参加を得、開催しました。

H30年度の普及指導計画の活動内容について構成員の皆様にご意見をお伺いするとともに、今年は基盤整備事業についての説明も行いました。

構成員の皆さんからは、簡単な機器の紹介や環境測定装置を入れている人の情報交換があればいいという意見が出ました。

農業改良普及課は、意見交換の内容を踏まえ、平成30年度の普及活動を推進して参ります。

小野地区でのニンニク栽培検討会
～目指せ！ニンニクでの耕作放棄地対策と6次産業化～



ニンニク栽培について検討中

6月6日の町小野地区で、耕作放棄地対策と6次産業化のためのニンニク栽培について、2名の発起人の方を対象に検討会を行いました。

農業改良普及課は、ニンニクの栽培や黒ニンニクについて説明を行い、その後耕作放棄地を確認しました。地元の方からは、栽培面積と種芋の量についてや、6次化のための加工設備の事業等について質問が出ました。

今後は、地元でのニンニク栽培等や地域での話し合いについて、要請に応じて適宜対応していきます。